

令和7年度 社会科 1年歴史 年間指導計画・評価計画

< 1 > 教科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

< 2 > 歴史的分野の目標

- (1)我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2)歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3)歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵かん養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとするものの大切についての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。

< 3 > 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。
思考・判断・表現	歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

< 4 > 観点別評価の評価基準と評定

観点別 評価基準	A	十分に満足できる状況である。(80%以上)
	B	おおむね満足できる状況である。(50%以上)
	C	努力を要する状況である。(50%未満)

評 定	5	十分に満足できる状況であるもののうちで、特に程度の高いもの。(90%以上)
	4	十分満足できる状況である。(80%以上)
	3	おおむね満足できる状況である。(50%以上)
	2	努力を要する状況である。(50%未満)
	1	一層努力を要する状況である。(20%未満)

< 5 > 指導上の配慮事項

- ①思考力・判断力・表現力の育成。→生徒の言語活動を充実させる指導。
- ②自主的・自発的な学習の促進。→体験的な学習や問題解決的な学習。発展的な学習
- ③学習の見通しを立てたり、振り返ったりする学習。
- ④個に応じた指導の充実。→ 個別指導 グループ別指導 繰り返し指導 課題学習 補充的な学習

社会科 1 学年 歴史的分野 年間指導計画・評価計画

【評価の観点】知識・技能＝①、思考・判断・表現＝②、主体的に学習に取り組む態度＝③

	主な学習内容	学習目標	評価規準の例
	第1章 歴史のとらえ方と調べ方 第1節 歴史の流れと時代区分1 年代の表し方と時代区分 ◎年代の表し方や時代区分にはどんな種類があるのだろうか。	(1)西暦、世紀、元号それぞれの意味と使い方を理解できる。 (2)政治の中心地による時代区分や文化の特徴から名づけられた時代区分があることを理解し、時代を区分できる。	①さまざまな年代の表し方や時代区分について理解し、西暦、世紀、元号などを使って適切に説明している。 ①時代区分は解釈により異なることを理解し、資料（絵）に描かれた人物や出来事を事例として時代を区分する技能を身につけている。 ②歴史を大きく変えた人物や出来事などを適切に取り上げ、時代区分との関わりについて考察し、「歴史をたどろう」の道の上に、適切に時代区分を書き込んでいる。 ③西暦、世紀、元号などの年代の表し方や、さまざまな時代区分について、分かったことを整理し、今後の学習へのつながりを見いだそうとしている。
	第2節 歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた 1 歴史の謎を探ろう	(1)地域の歴史に触れ、調べてみたい事柄を探し、グループで話し合うなどして調べる課題を決定できる。	①図書館、博物館・資料館、インターネットなどから適切に情報を集める技能を身につけている。②これまでに学習した人物、身近な人の話や言い伝え、地域の気になる建物・風景、遺跡・遺物、行事・風習などから、話し合いをもとに調べるテーマを適切に設定している。③身近な地域の歴史や受け継がれてきた伝統・文化に対する関心を高め、課題を追究しようとしている。
	2 資料をよく見てヒントを探そう	(1)教科書や地域の副読本など、身近な資料から基本的な情報を集め、調べる視点を明確にして、いくつかの仮説を立てることができる。 (2)野外調査や聞き取り調査を通して新たな情報を収集し、整理できる。	①適切な地図・年表のつくり方や、野外調査・聞き取り調査のしかたを身につけている。 ①身近な地域の歴史や受け継がれてきた伝統・文化に関するさまざまな資料を収集し、予想に関連のある情報を適切に読み取ったり、事実と事実でないことを区別したりするなど、記録を適切に整理している。 ②野外調査や聞き取り調査を通して、分からなかったことや新たな疑問などを日本の歴史の大きな流れと結びつけて考察し、自分の予想を根拠をもとに適切に表現している。

	3 謎解きの答えをまとめよう	(1)調べたり考えたりしたことを整理し、まとめの報告書(レポートやスライド)を作成できる。 (2)調べたことを発表し、調査全体を振り返り、改善できる点や工夫できる点を探して、今後の調査活動に生かすことができる。	①適切なレポートやスライドのまとめ方、発表のしかたを身につけている。 ①調査を通して分かった事柄を適切な項目を立てて整理し、根拠となる資料を年表、地図、写真・イラスト、関係図・流れ図などを用いて表現している。 ②聞く人や見る人をひきつける発表を工夫し、相手と自分の意見の違いや共通点をもとに意欲的に意見交換をして、自分の考えを深めている。 ③調査活動全体を振り返り、調査の方法や留意点について自身の学びを確認、調整しようとしている。
	第1節 人類の登場から文明の発生へ 1 人類がたどった進化 ◎人類は進化の過程で、どのように生活を変化させてきたのだろうか。	(1)人類がどのように進化してきたのか、環境の変化との関わりから考察し、説明できる。 (2)日本列島に人類が住み始めた経緯や、旧石器時代と新石器時代の違いを理解できる。	①壁画や道具の変化から、人類の進化に関わる情報を読み取っている。 ①旧石器時代と新石器時代の道具や生活のしかたの違いを理解している。 ②本時の学習課題について、環境の変化への対応、道具の使用や火、言葉などの発達に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③「世界各地の文明は、どのように成立し、発展したのだろうか」という「節の問い」について、見通しをもって取り組もうとしている。
	2 世界各地で生まれる文明 ◎古代文明はどのような特徴があったのだろうか。	(1)環境の変化の影響を受け、牧畜や農耕が始まり、文明が発生したことを理解できる。 (2)古代文明に共通する特色から、文明が生まれた条件を考察し、説明できる。	①牧畜や農耕の始まりが、古代文明の誕生につながっていった経緯を理解している。 ①メソポタミア、エジプト、インダスの文明の特色を理解している。 ②本時の学習課題について、古代文明が誕生した地域に共通する条件に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③ナイル川の氾濫が文明の発達に与えた影響について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題に対して関心を高めている。
	3 東アジアの文明の広がり ◎古代の中国は、どのように国を治めていったのだろうか。	(1)中国文明の特色を、ほかの古代文明との共通点から理解できる。 (2)秦と漢の政治のしくみや特色を、広大な領土を支配したこととの関わりから考察できる。	①中国文明の特色を、ほかの古代文明の特色との共通点から理解している。 ②本時の学習課題について、秦や漢が広大な領土を支配した政治のしくみに着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。

	4 ギリシャとローマの政治と文明 ◎古代のギリシャ、ローマではどのような政治が行われたのだろうか。	(1)古代のギリシャとローマの政治と文明の特色を理解できる。(2)古代のギリシャやローマで行われた民主政や共和政が、現代の民主政治と異なっていることを考察できる。	①ギリシャとローマの政治と文明の特色を理解している。②本時の学習課題について、ギリシャやローマの民主政治と現在の民主政治との違いに着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
	5 仏教・キリスト教・イスラム教の誕生 ◎仏教・キリスト教・イスラム教の教えには、それぞれどのような特色があるのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 世界各地の文明は、どのように成立し、発展したのだろうか。	(1)仏教・キリスト教・イスラム教の特色を理解できる。 (2)三つの宗教が、世界各地に広まった理由を考察し、説明できる。	①仏教・キリスト教・イスラム教が誕生した時期と、それぞれの教えの特色を理解している。 ①仏教・キリスト教・イスラム教が広まった地域を理解している。 ②本時の学習課題について、宗教が誕生した背景に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ②「世界各地の文明は、どのように成立し、発展したのだろうか」という「節の問い」について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③「節の問い」を振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
	第2節 東アジアのなかの倭(日本) 1 縄文から弥生への変化 ◎縄文・弥生時代の日本列島の人は、それぞれどのような生活をしていただろうか。	(1)縄文時代と弥生時代の人々の生活の特色を理解できる。 (2)弥生時代の人々の生活や道具が大きく変化した理由を考察し、説明できる。	①縄文時代と弥生時代の生活のしかたや道具の特色を理解している。 ①稲作の広まりが、人々の生活や社会に与えた影響を理解している。 ②本時の学習課題について、人々の生活や道具の違いに着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
	2 ムラがまとまりクニへ ◎日本列島のクニはどのようにまとまっていったのだろうか。	(1)本文と史料にある中国の歴史書を読み解き、当時の日本国内では小国が分立して争っていたことが理解できる。 (2)中国の漢から倭の奴国に金印が授受されたことの意味を考察し、説明できる。	①本文やデジタル教科書にある本文やデジタル教科書にある中国の歴史書から、当時の日本の様子を読み取っている。 ②本時の学習課題について、中国との結びつきに着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
	3 鉄から見えるヤマト王権 ◎ヤマト王権はどのようにして各地の豪族を従えていったのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 日本列島ではどのようにクニができ、勢力を拡大したのだろうか。	(1)3世紀～6世紀ごろの倭国の政治状況と外交関係の特色を理解できる。 (2)ヤマト政権が勢力を拡大していった経緯を考察し、説明できる。	①ヤマト王権と豪族の関係を、古墳の分布や鉄の広まりなどから読み取ることができる。 ②本時の学習課題について、中国や朝鮮半島との結びつきや国内の遺跡に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③「節の問い」について振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。

	第3節 中国にならった国家づくり 1 ヤマト王権と仏教伝来 ◎蘇我氏や聖徳太子は、どのような国をつくろうとしたのだろうか。	(1)蘇我氏や聖徳太子の改革の特色とそのねらいを理解し、仏教を重視した理由を考察できる。 (2)蘇我氏や聖徳太子が改革を行った理由を中国との関係から考察し、説明できる。	①蘇我氏や聖徳太子の改革の特色とそのねらいを理解している。 ②本時の学習課題について、中国や朝鮮半島との結びつきや仏教と政治の結びつきに着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③法隆寺にみられる高度な技術について、よりよい社会の実現を視野に、関心を高めている。
	2 揺れ動くアジアと倭国 ◎倭国(日本)はどのような改革を進めたのだろうか。	(1)大宝律令の制定により、中央集権国家のしくみがつくられたことを理解できる。 (2)白村江の戦いの敗北後、天皇を中心とする国づくりが行われた理由を考察し、説明できる。	①大宝律令や都が唐を手本にしたものであることを理解している。 ②本時の学習課題について、中国や朝鮮半島の情勢に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
	3 律令国家での暮らし ◎奈良時代の土地と税の制度にはどのような特色があったのだろうか。	(1)班田収授法のしくみを理解し、律令体制の下で農民は重い負担を強いられていたことを理解できる。 (2)墾田永年私財法が出された理由と、社会に与えた影響を考察し、説明できる。	①都が平城京に移された理由を理解している。 ①班田収授法のしくみを理解し、農民の負担が大きかったことを理解している。 ②本時の学習課題について、墾田永年私財法が制定された理由と社会に与えた影響に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
	4 大陸の影響を受けた天平文化 ◎奈良時代には、どのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ なぜ、日本の古代国家は、中国にならった国づくりを行ったのだろうか。	(1)奈良時代には、大陸の影響を受けた国際的な文化が栄えたことを理解できる。 (2)大仏造立など、仏教に関わる大規模な事業が行われた理由を考察し、説明できる。	①遣唐使を通して、唐の政治のしくみや進んだ文化が伝えられ、国際色豊かな天平文化が栄えたことを理解している。 ②本時の学習課題について、大陸との関わりと仏教の展開に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③古代の疫病の流行と人々の対応や、自然災害と神話との関係について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題に対して関心を高めている。 ③「節の問い」について振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
	第4節 展開する天皇・貴族の政治 1 権力を握った貴族たち	(1)桓武天皇の政治の特色を理解し、平安京に都を移した理由を考察できる。 (2)摂関政治のしくみを理解し、藤原氏が	①桓武天皇の政治の特色と平安京に都を移した理由を理解している。 ①摂関政治のしくみを理解するとともに、地方の治安が乱れていった背景について理解し

	◎平安時代に行われていた政治は、どのような特色があったのだろうか。	権力を掌握できた理由を考察し、説明できる。	ている。 ②本時の学習課題について、藤原氏が権力を握り続けることができた理由に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
	2 唐風から日本風へ変わる文化 ◎平安時代にはどのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 中国の影響を受けた日本の政治と文化は、どのように変化していったのだろうか。	(1)遣唐使の停止により、日本の貴族の生活や好みに合わせた独自の文化が形成されたことを理解できる。 (2)平安仏教の中心が密教から浄土信仰に移っていった理由を、社会の変化から考えることができる。	①平安時代の文化の特色を、国際関係や政治の動きと関連づけて理解している。 ②本時の学習課題について、代表的な文学作品や浄土信仰に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③平安時代の文化の特色について、国際関係や政治の動き、代表的な文学作品や仏教の展開に着目させ、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題に気づかせる。 ③「節の問い」について振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
	章の学習を振り返ろう 古代国家の成立と東アジア ■章の問い■ 国づくりが行われていった古代の社会には、どのような特色があったのだろうか。	(1)古代の日本で国が成立するために重要なことは何かを考え、その理由とともに発表して意見交換を行うことができる。 (2)古代とはどのような時代か、自分の言葉で表現したり、意見交換を行ったりすることができる。	①「国づくりが行われていった古代の社会には、どのような特色があったのだろうか」という「章の問い」について、第2章の学習で獲得した知識を活用して、自分の考えをまとめている。 ②「国づくりが行われていった古代の社会には、どのような特色があったのだろうか」という「章の問い」について、人々の役割の移り変わりや「国づくり」と宗教の関係性に着目するなどして、多面的・多角的に考察し、古代の特色を適切に表現するとともに、現在とのつながりについて考察している。 ③第2章における自身の学習の経緯について振り返り、学習の方法や留意点について自身の学びを確認、調整しようとしている。
	第3章 武家政権の成長と東アジア 第1節 武士の世の始まり 1 各地で生まれる武士団 ◎武士は、どのようにして登場し、力をつけていったのだろうか。	(1)武士が台頭してきた理由を、土地の所有や権利などをめぐる社会の変化から考察できる。 (2)地方の反乱を鎮めることを通し、武士団が成長し自立していったことを理解できる。	①天皇の子孫である源氏や平氏が、各地の武士団を広くまとめ、武士の統率者（棟梁）となっていたことを理解している。 ②本時の学習課題について、荘園、公領をめぐり争いや都と地方の武士が果たした役割に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。

	2 朝廷と結びつく武士 ◎平氏は、どのようにして政治の実権を握ったのだろうか。	(1)政治の実権が摂関政治から院政に移行していったことを、武士の台頭との関わりから理解できる。 (2)平清盛が権力を握ることができた理由を考察し、表現できる。 (3)平氏の政治の課題について、武士政権の実現を視野に、主体的に追究することができる。	①院政を経て源氏と平氏が大きな力をもつようになった背景や、平清盛が政治の実権を握るきっかけとなった出来事、平氏政権の経済的な基盤などについて理解している。 ②本時の学習課題について、以前に学んだ藤原氏と今回学ぶ平氏の共通点と相違点に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
	3 鎌倉を中心とした武家政権◎鎌倉幕府は、どのようにして武士たちを支配したのだろうか。	(1)鎌倉幕府は、御恩と奉公による主人と家来の主従関係を基盤としていたことを理解できる。(2)鎌倉幕府の全国支配と執権政治が確立された理由を、承久の乱との関わりから考察できる。	①主従関係のしくみを本文から読み取り、効果的にまとめ、理解している。①資料をもとにして、承久の乱の勝利をきっかけに、鎌倉幕府と東国の武士による支配が西国にも及ぶようになったことを理解している。②本時の学習課題について、御恩と奉公の関係や執権政治の展開に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
	4 武士や僧侶たちが広めた鎌倉文化 ◎鎌倉時代には、どのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ なぜ、武士が政治の実権を握るようになったのだろうか。	(1)鎌倉時代には、武士の気風を反映した力強い文化が生まれたことを理解できる。 (2)鎌倉時代に新しい仏教が生まれてきた理由を、社会との関わりから考察し、表現できる。	①新たな政治の支配者となった武士の気風に合った鎌倉時代の文化の特色を、具体的な文化財とその特徴をもとにして理解している。 ①鎌倉時代の新しい仏教について、開いた人とその教え、どのような人々に受け入れられたかを読み取り、効果的にまとめて、理解している。 ②本時の学習課題について、武士の台頭や当時の社会情勢に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③自然災害に見舞われた中世の人々について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題に対する関心を高めている。 ③「節の問い」について振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
	第2節 武家政権の内と外 1 モンゴル帝国と「蒙古襲来」 ◎モンゴル帝国の拡大は、鎌倉幕府にどのような影響を与えたのだろうか。	(1)モンゴル帝国の成立が世界や東アジアに与えた影響を、領土の拡大と文化の交流の視点から理解できる。 (2)蒙古襲来が幕府と御家人との関係に与えた影響を、御恩と奉公の主従関係から考察できる。	①蒙古襲来は、モンゴル帝国の領土拡大の一環として行われたことを理解している。 ①2度の蒙古襲来が幕府と御家人に与えた影響を、資料から読み取っている。 ②本時の学習課題について、御家人たちの不満が高まった理由に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③モンゴル帝国によるグローバルな東西交流について、よりよい社会の実現を視野に、そ

			こでみられる課題に対して関心を高めている。
	2 南北朝の内乱と新たな幕府 ◎武家政権は、鎌倉幕府の崩壊の後、どのように変化したのだろうか。	(1)鎌倉幕府の滅亡から南北朝の動乱、室町幕府の成立までの経緯を理解できる。 (2)鎌倉時代の守護と室町時代の守護大名の違いを、年貢の徴収権と領国支配の違いから考察できる。	①建武の新政が失敗に終わった理由と、その後の南北朝の対立から室町幕府の成立までの経緯を理解している。 ①鎌倉幕府と室町幕府のしくみの違いを読み取ったうえで、室町幕府では管領に有力な守護大名が任命されるようになったことに着目し、武家政治がどのように変化したのかを理解している。 ②本時の学習課題について、室町幕府と守護大名との関係に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
	3 東アジアの交易と倭寇 ◎室町幕府は、明や朝鮮とどのように貿易を進めたのだろうか。	(1)室町幕府は明と朝貢形式の交易を行い、日明貿易により大きな利益を得ていたことを理解できる。 (2)日明貿易の特色を理解し、貿易に勘合が用いられた理由を考察できる。	①室町幕府と明・朝鮮の関係について、倭寇の活動やそれぞれとの交易の特色などを通して理解している。 ②本時の学習課題について、朝貢や倭寇に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
	4 琉球とアイヌ民族がつなぐ交易 ◎琉球王国やアイヌ民族は、周辺諸国とどのような関係を築いたのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ ユーラシア大陸からの影響によって、日本にどのような変化が起こったのだろうか。	(1)琉球王国は、地理的な特質を生かした中継貿易を行っていたことを理解できる。(2)アイヌ民族は、独自の文化を育み、北方の地域や日本と交易していたことを理解できる。	①琉球王国とアイヌ民族の交易の特色を理解するとともに、琉球王国は日本と同じように明への朝貢貿易を行っていたことを理解している。②本時の学習課題について、琉球やアイヌ民族と本州の人々との関係に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。③擦文文化やアイヌ文化について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題に対して関心を高めている。③「節の問い」について振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
	第3節 人々の結びつきが強まる社会 1 技術の発達とさまざまな職業 ◎鎌倉時代から室町時代にかけて	(1)鎌倉時代からの農業生産力の向上に伴い、室町時代には手工業が発達してさまざまな職業が登場し、流通の発達が促されたことを理解できる。 (2)経済活動が盛んになり貨幣経済が成長した理由を考察し、表現できる。	①室町時代には、どのような手工業、運送業、金融業などが発達したのか、絵画資料などから適切に読み取り、理解している。 ②農業生産力の高まりが産業や交通に与えた影響に着目し、産業や交通が発展していった理由を考察し、適切に表現している。

	て、産業と交通はどのように発展していったのだろうか。		③中世の老人と子ども、女性について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題に対して関心を高めている。
	2 団結して自立する民衆 ◎人々は、自分たちの目的を成し遂げるために、どのような行動を起こしたのだろうか。	(1)自力救済の社会のなかで、共同体が強固になり、民衆たちが独自の行動を起こすようになったことを理解できる。 (2)村や都市の共同体が、政治権力の干渉を排除するほどに結びつきを強めた理由を考えることができる。	①資料から、民衆の一揆の目的や自治的な組織をつくった理由などを読み取っている。 ②本時の学習課題について、人々のヨコの結びつきや自治の仕組みに着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
	3 全国に広がる下剋上 ◎応仁の乱をきっかけとして、社会はどのように変わっていったのだろうか。	(1)応仁の乱の背景を考察し、戦国大名によって領国支配が確立されていったことを理解できる。 (2)守護大名と戦国大名の違いについて、幕府や領国との関係に着目して考察し、表現できる。	①どのような人が戦国大名となったのか、どのような政策を実施したのか、また、戦国大名がどのように領国を支配していったのかを理解している。 ②本時の学習課題について、戦国大名の動きに着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③自然を生かした信玄堤について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題に対して関心を高めている。
	4 庶民に広がる室町文化 ◎室町時代には、どのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ なぜ、人々は結びつきを強めていったのだろうか。	(1)室町時代には、武家と公家の文化が融合し、日本的な美意識や生活様式をもつ文化が形成され、現代につながっていることを理解できる。 (2)室町時代には、庶民や地方にも京都の文化が広がっていった理由を考えることができる。	①室町時代の文化の特色を、北山文化と東山文化の違いと共通点から理解させ、室町文化の特徴が現代の文化や生活様式などに受け継がれていることを理解している。 ②本時の学習課題について、室町文化とそれまでの文化の違いに着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③「節の問い」について振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
	章の学習を振り返ろう 武家政権の成長と東アジア ■章の問い■ 武士による政治が行われたことによって、社会はどのように変化したのだろうか。	(1)中世までに登場した身分や職業を武士と庶民のまとまりに分けて、人々がそれぞれに結びつきを強めていった目的は何かを考え、説明して話し合うことができる。(2)中世とはどのような時代か、自分の言葉で表現したり、意見交換を行ったりすることができる。	①「武士による政治が行われたことによって、社会はどのように変化したのだろうか」という「章の問い」について、第3章の学習で獲得した知識を活用して、自分の考えをまとめている。②「武士による政治が行われたことによって、社会はどのように変化したのだろうか」という「章の問い」について、支配者層の移り変わりや人々の持ち物の変化と武士との関係に着目するなどして、多面的・多角的

			に考察し、中世の特色を適切に表現するとともに、現在とのつながりについて考察している。③第3章における自身の学習の経緯について振り返り、学習の方法や留意点について自身の学びを確認、調整しようとしている。
	第4章 武家政権の展開と世界の動き 第1節 大航海によって結びつく世界 1 ヨーロッパの変革 ◎ヨーロッパの文化や社会は、イスラム商人との交流によってどのように変化していったのだろうか。	(1)イスラム文化の影響を受け、近代ヨーロッパ世界が形成されたことを理解できる。(2)ヨーロッパで、ルネサンスと宗教改革が起こった背景とその影響を考察し、表現できる。	①十字軍の遠征を通じたヨーロッパとイスラム圏の接触により、イスラムの学問や技術などが伝わり、ヨーロッパに変革が起きたことを、さまざまな資料を適切に読み取り、理解している。②本時の学習課題について、ヨーロッパでルネサンスや宗教革命が起こった背景を、十字軍の失敗によるローマ教皇の権威の失墜とイスラム文化の伝播との関連から考察し、適切に表現している。③中世の価値観の変化がヨーロッパの社会に与えた影響について関心を高めている。
	2 大航海時代の幕開け ◎ヨーロッパの人々の進出によって、世界はどのように変化したのだろうか。	(1)ヨーロッパの人々が、新航路の開拓を行った目的を理解できる。 (2)新航路の開拓により、ヨーロッパの人々が貿易や布教のために世界各地に進出したことで、世界の一体化が始まったことを考察できる。	①コロンブス、バスコ=ダ=ガマ、マゼランが開拓した航路と、新航路の開拓を行った目的を理解している。 ①アメリカ大陸の古代文明の特色と、ヨーロッパの人々が先住民の社会に与えた影響について理解している。 ②本時の学習課題について、キリスト教の布教や貿易、植民地化の進出ルートや広がりについて調べ、新航路の開拓がアフリカやアメリカ、アジアにもたらした影響について資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③ヨーロッパの人々によってアメリカ大陸にもちこまれた伝染病について、そこでみられる課題に対して関心を高めている。
	3 東アジアの貿易と南蛮人 ◎ヨーロッパの国々による世界進出によって、日本の生活や文化はどのような影響を受けたのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ ヨーロッパの国々による世界進出	(1)南蛮貿易の特色を理解し、鉄砲の伝来が日本の社会に与えた影響を理解できる。 (2)日本にキリスト教が伝わった背景と、国内にキリスト教が広まった理由を考察できる。	①南蛮貿易の主な貿易品や日本に与えた影響と、ヨーロッパ船の来航地や来航目的を理解している。 ②本時の学習課題について、南蛮人の来航による鉄砲やキリスト教の伝来に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。

	は、各地の生活や文化にどのような影響を与えたのだろうか。		
第2節 戦乱から全国統一へ 1 信長・秀吉による全国統一 ◎戦国大名は、どのようにして全国統一を進めたのだろうか。	(1)信長・秀吉の統一事業により、中世社会の勢力が力を失い、近世社会の到来が促されたことを理解できる。 (2)信長の諸政策の特色を理解し、それぞれの政策のねらいを考察できる。	①戦国時代はどのようにして終わったのか、織田信長と豊臣秀吉が全国統一を果たしていた経緯をもとに理解している。 ②本時の学習課題について、主に信長の政策に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。	
2 秀吉が導いた近世社会 ◎秀吉は、国内と海外に対してどのような政策を行ったのだろうか。	(1)秀吉の諸政策が中世的な土地制度を解体し、検地に基づく直接的な土地支配を確立したことを理解できる。(2)秀吉の対外政策の特色を、海外貿易の許容とキリスト教の禁止との矛盾、文禄・慶長の役の失敗から考察できる。	①検地と刀狩によって中世までとは異なる社会がつくられたことを、兵農分離に着目して理解している。①文禄・慶長の役が豊臣氏の支配が弱まる原因になったことを理解している。②本時の学習課題について、検地や刀狩、文禄・慶長の役に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。	
3 戦国大名と豪商が担った桃山文化 ◎安土桃山時代には、どのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 全国統一が進むなかで、社会はどのように変化したのだろうか。	(1)戦国大名や豪商の経済力を背景に、戦国時代末期から安土桃山時代にかけて、豪壮な文化が生まれたことを理解できる。 (2)南蛮貿易によって西洋の文化がもたらされるとともに、庶民の間にも芸能や娯楽が広まっていったことを理解できる。	①桃山文化の特色を、戦国大名や豪商の豊かな経済力と南蛮貿易の影響に着目して理解している。 ②本時の学習課題について、中世の文化と桃山文化との違いに着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③よりよい社会の実現を視野に、築城による森林伐採や朝鮮半島から伝わった文化について、そこで見られる課題に対して関心を高めている。 ③「節の問い」について振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。	